

本書の使い方

本文

【見出し】重要事項を見出しとして記載。そのまま丸暗記できる形にしています。

【赤文字】重要な用語や鍵となる述語を赤文字に。添付の赤色シートを利用すれば、さらに学習効果アップ。

マンガ、図表

田中家の一家が活躍するマンガで、楽しく学習。簡潔にまとまった図解でわかりやすく。

7 門脈

◆**胃腸の静脈**は、いったん合流して**門脈**となり**肝臓**に行く。一般の静脈と異なり、胃腸の静脈はいったん合流して肝臓に向かう。この合流した血管を**門脈**という。門脈は肝臓に向かい、再度細かく枝分かれして、肝臓の細胞に届かなくてはならない栄養分などを届けている。

◆**肝臓は門脈と肝動脈との両者から血液を受けている**。肝臓には本来の動脈も来ている。これを**肝動脈**という。心臓の冠動脈と発音は同じ。

●**硬変では食道静脈瘤**ができて、これが破裂すると大出血を起こす。硬変では、肝臓内の門脈の流れが悪くなり、その分の血液が食道静脈に流れ込む。その結果静脈がふくらむ。これが**食道静脈瘤**である。食道静脈瘤の破裂は、肝硬変の大きな**死因**の1つ。

◆**腸管からのリンパは合流して腎管となり、左臍骨部で静脈に合流する**。腹部と背中からのリンパはすべて**胸管**という1本のリンパ管にまとめられ、胸部を上行し左臍骨の裏側付近で静脈に合流する。リンパ管の途中途中には**リンパ節**がある。

◆**静脈の静脈は門脈ではなく、一般の静脈と同じ流れ方をする**。坐薬のように直腸から吸収された薬は、肝臓を経由せずに全身に回る。坐薬は最初に肝臓を経由しないだけで、効果よりも効果が高い。

がんの転移

通常は、がん細胞がリンパ管もしくは血管を伝わって遠くに転移していく。胃腸のがんが転移するとき、血液に乗れば門脈を介してまず肝臓へ到達する。だから大腸がんでは肝臓が多い。リンパに乗れば、流れに沿ってリンパ管を順順に転移しながら肺管から肺臓に流れ込み、集まって全身へ行く。がんの手術ではがん細胞だけでなく、周囲のリンパ管も全て切除する。

コラム

知っておくと学習に役立つ豆知識。

瘤と憩室



● 1. 正常の血管はきれいな形です。2. 血管に瘤というところがあると・・・
3. 圧が加わるとそこがふくらむ。これが血管瘤です。4. そして、瘤が破裂すると非常にヤバイことになる。

● 静脈にできたふくらみを**静脈瘤**、静脈にできたふくらみを**静脈瘤**、大腸にできたふくらみを**憩室**という。いずれも破裂しやすい。

病気の基礎知識 肝細胞がんの蔓延療法

● 肝臓は、門脈と肝動脈の両者から血液や栄養の供給を受けている。正常な肝臓は、門脈だけからの血液でできている。しかし肝臓のがん細胞は、主に肝動脈からの血液でできている。そこで肝動脈を人工的に詰めて肝動脈の血液を止めると、正常な肝細胞は死なすががん細胞だけを殺すことができる。この方法は肝細胞がんの治療法として、広く行われている。

病気の基礎知識

関連する病気についても解説。

★各 Part の最後には、過去の国家試験問題を出典とした確認問題がついています。